

アウトドア体験サービスを行っている事業者には調査票を送付し、回答があった分について、次のとおり取りまとめた。

## II アウトドア体験サービス実施状況調査

### 1 調査概要

#### (1) 調査目的

アウトドア体験サービスの実施状況を把握し、新たな資格制度の構築に反映させるほか、アウトドア活動振興に係る施策検討等の基礎資料とするため。

#### (2) 調査対象者

平成26年度道内体験型観光施設資源調査結果からアウトドア体験サービスを行っているものとして抽出した事業者及びホームページ「ゆっくりのんびり北海道」のアウトドアガイド事業所一覧から抽出した事業者 395社

#### (3) アンケート回収率

118(回答数) / 395(調査対象数) = 29.9%

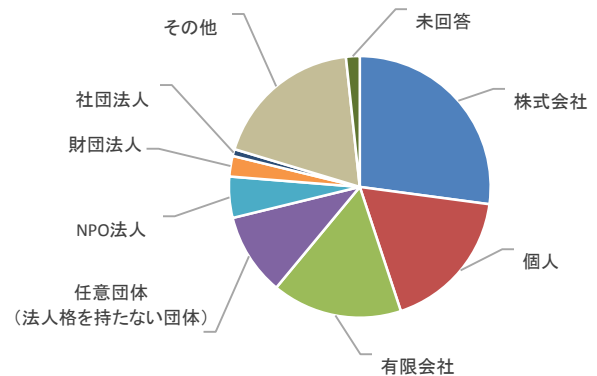
### 2 調査結果

#### 1 貴事業所の概要について

##### 【質問1】

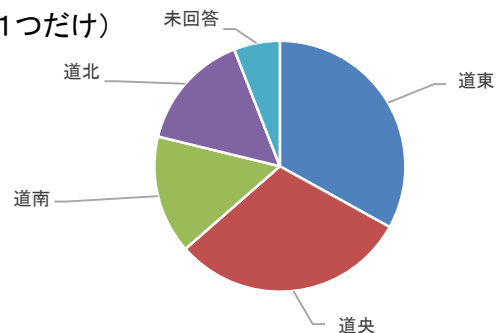
(1) 経営形態は、次のうちどれに該当しますか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
株式会社	32	27%
個人	21	18%
有限会社	19	16%
任意団体 (法人格を持たない団体)	12	10%
NPO法人	6	5%
財団法人	3	3%
社団法人	1	1%
その他	22	19%
未回答	2	2%
計	118	100%



(2) 事業所の所在地は、次のうちどれに該当しますか。(○は1つだけ)

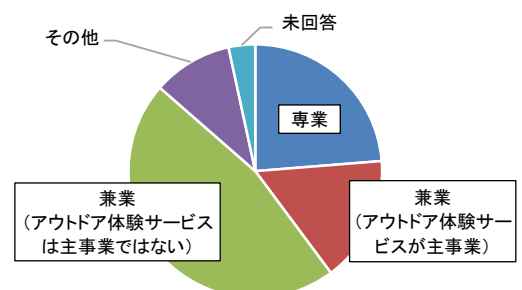
区分	回答数	比率
道東	39	33%
道央	36	31%
道南	18	15%
道北	18	15%
未回答	7	6%
計	118	100%



##### 【質問2】

(1) 営業形態は、次のうちどれに該当しますか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
① 専業	28	24%
② 兼業 (アウトドア体験サービスが主事業)	19	16%
③ 兼業 (アウトドア体験サービスは主事業ではない)	55	47%
④ その他	12	10%
未回答	4	3%
計	118	100%



(2) (1)で②と回答された方 副業を記入してください。

副業	回答数
宿泊業	4
飲食業	3
道の駅運営	2
アウトドアショップ	1
環境教育	1
キャンプ場管理	1
馬の販売	1
不動産賃貸業	1

副業	回答数
ITサービス	1
指定管理業務	1
介護事業	1
福祉・教育サービス	1
アウトドア体験	1
食育事業	1
その他	3
未回答	3

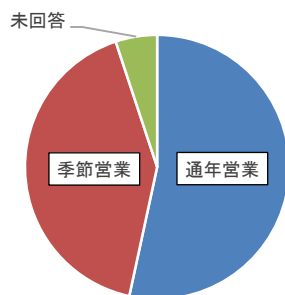
(3) (1)で③と回答された方 本業を記入してください。

本業	回答数
宿泊業	12
観光事業	11
施設運営	11
畜産業	8
飲食業	4
スキー場	4
漁業	3
製造業	3

本業	回答数
建設業	2
農業	2
造園業	1
派遣業	1
観光土産店	1
その他	3
未回答	1

(4) アウトドア体験サービスの営業時期は、次のどちらに該当しますか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
通年営業	63	53%
季節営業	49	42%
未回答	6	5%
計	118	100%

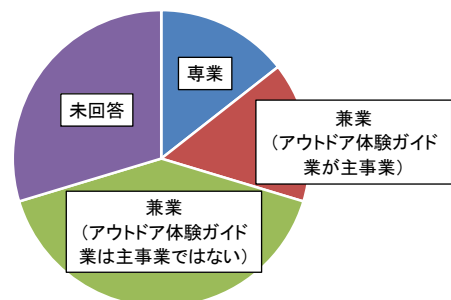


《季節営業時期内訳》

区分	回答数	比率
4月～10月	5	10%
4月～11月	7	14%
4月～2月	2	4%
5月～9月	1	2%
5月～10月	12	24%
5月～11月	1	2%
6月～8月	3	6%
6月～9月	2	4%
6月～10月	1	2%
6月～11月	1	2%
6月～2月	1	2%
7月～8月	1	2%
7月～10月	1	2%
11月～3月	1	2%
12月～3月	3	6%
1月～3月	3	6%
2月～11月	1	2%
その他	2	4%
未回答	1	2%
計	49	100%

(5) あなたが今後目指している営業形態は、次のうちどれに該当しますか。  
(兼業の場合((1)で②又は③と回答された方)のみお答え下さい)

区分	回答数	比率
専業	17	14%
兼業 (アウトドア体験サービスが主事業)	18	15%
兼業 (アウトドア体験サービスは主事業ではない)	48	41%
未回答	35	30%
計	118	100%



【質問3】

(1)従業員及びガイド・インストラクターの方は何名いらっしゃいますか。

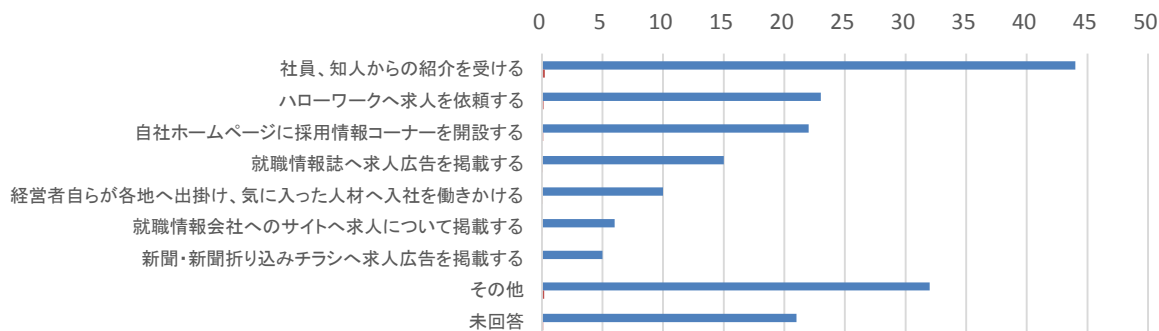
従業員総数	1,771 名	(回答数 111	未回答 7)
うちガイド・インストラクター数	612 名	(回答数 107	未回答 11)
対従業員総数比	34.6 %		
平均従業員数	16.0 名		
平均ガイドインストラクター数	5.7 名		

(2)従業員及びガイド・インストラクターのうち、道外出身者は何名いらっしゃいますか。

従業員総数	540 名	(回答数 96	未回答 22)
うちガイド・インストラクター数	211 名	(回答数 83	未回答 35)
対従業員総数比	39.1 %		
平均従業員数	5.6 名		
平均ガイドインストラクター数	2.5 名		

(3)ガイドの確保はどのように行っていますか。

区分	回答数	比率
社員、知人からの紹介を受ける	44	25%
ハローワークへ求人依頼する	23	13%
自社ホームページに採用情報コーナーを開設する	22	12%
就職情報誌へ求人広告を掲載する	15	8%
経営者自らが各地へ出掛け、気に入った人材へ入社を働きかける	10	6%
就職情報会社へのサイトへ求人について掲載する	6	3%
新聞・新聞折り込みチラシへ求人広告を掲載する	5	3%
その他	32	18%
未回答	21	12%
計	178	100%

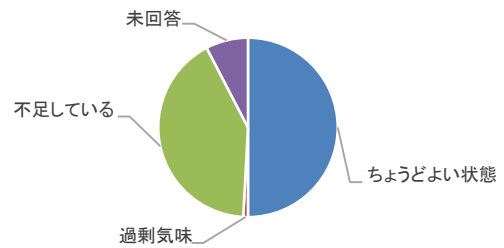


《その他の内訳》

回答	回答数
行っていない	11
町広報誌へ求人広告を掲載	4
市・町職員	3
自社で養成・教育	3
一部委託している	1
イベントごとに依頼	1
外国人	1
ガイド団体に委託	1
業務提携先からの紹介	1
市民団体に声かけ	1
地元出身で技術人格の優れた人材	1
住民の登録制	1
地域おこし隊、シルバーセンター	1
本人からの入会希望と入会への働きかけ。	1
ライダーハウス等に求人チラシを貼る	1
計	32

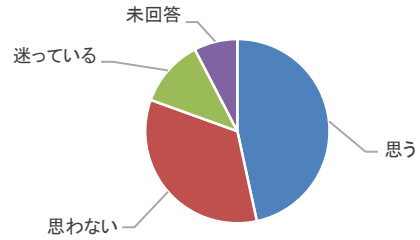
(4) 人員は十分ですか。

区分	回答数	比率
ちょうどよい状態	59	50%
過剰気味	1	1%
不足している	49	42%
未回答	9	8%
計	118	100%



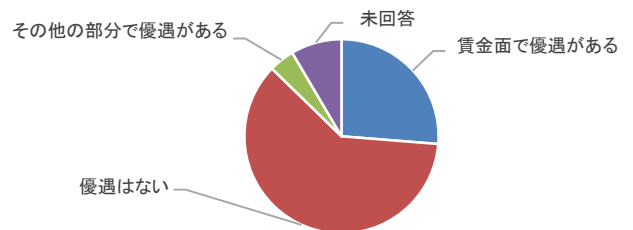
(5) 今後増員をしたいと思いますか。

区分	回答数	比率
思う	55	47%
思わない	40	34%
迷っている	14	12%
未回答	9	8%
計	118	100%



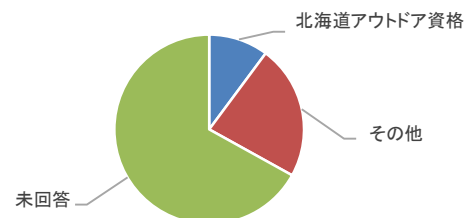
(6) 業務に有効な資格を所有している方とそれ以外の方とでは、待遇の差はありますか。

区分	回答数	比率
賃金面で優遇がある	31	26%
優遇はない	72	61%
その他の部分で優遇がある	5	4%
未回答	10	8%
計	118	100%



(7) 優遇の対象となる資格にはどのようなものがありますか。

区分	回答数	比率
北海道アウトドア資格	12	10%
その他	27	23%
未回答	79	67%
計	118	100%



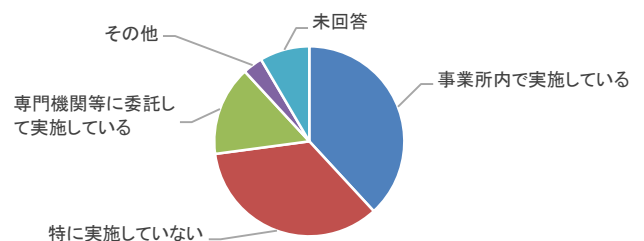
《その他の内訳》

回 答	
乗馬指導者資格	熱気球パイロット、山岳ガイド協会
全乗振インストラクター	乗馬指導者資格
他の人ができない特技がある。	レスキュー3、JSCA
PADIインストラクター	乗馬、トレッキング
野外救急法	RAJ、山岳ガイド協会
全国乗馬クラブ振興協会認定指導者	学芸員資格
インストラクター(乗馬)	CONE資格他環境教育系資格
TOEIC、SAJ、SIA等スキー、スノーボード関連の資格	酪農教育ファームファンリレーター
国家資格(操縦士)	船舶免許
索道主任	大型自動車
地域に精通	RAJ資格・大型免許
SRT-1等	学芸員・社会教育主事
各運転免許等	幅広い見識
技術テクニックとコミュニケーション度	乗馬指導資格者

【質問4】

(1) ガイド・インストラクターを対象とした教育訓練の実施状況について、次のうちどれに該当しますか。  
(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
事業所内で実施している	45	38%
専門機関等に委託して実施している	18	15%
特に実施していない	41	35%
その他	4	3%
未回答	10	8%
計	118	100%



《その他の内訳》

回答	回答数
資格に応じた講習会受講	1
ガイド本人が研修、セミナーをさがし受講	1
未回答	2

(2)教育訓練の内容について記入してください。(教育訓練を実施している場合のみお答え下さい。複数回答可)

訓練内容	回答数
救急救命法	24
カヌー操作実地訓練	5
MFA	4
SRT-1	4
ガイド研修会	4
騎乗技術	4
上級救命救急	4
レスキュー3	3
レスキュートレーニング	2
普通救命講習	2
救命訓練	2
自然ガイドの知識	2
スキルアップ研修会	2
地質学	2
AED取扱訓練	1
EFR	1
JSCA インストラクター	1
SFR	1
SRP	1
SRT	1
安全対策	1
インストラクティング	1
カヌーレスキュー実地訓練	1
技術トレーニング	1
乗馬指導資格訓練	1
教授法	1
ジオパーク先進地訪問	1
指導方法についての基本マニュアルを作成し訓練	1
社内先輩ガイドによる実務研修	1
接客	1
チェーンソー、草刈機の使用訓練	1
ツアー実施訓練	1
ていねいに、親切な心あたたまる対応	1
ニールリーダー資格	1
農業概論	1
フィールドでの危機管理	1
フィールドワーク	1
プログラミング	1
ボートコントロールや接客に対して	1
野外救急法の資格取得講習の参加	1
ラフティング・ネイチャーツアー・フィッシング等のガイディングトレーニング	1
ラフトボート	1
リスクマネジメント	1
英語でおもてなしができる程度の会話研修	1
気象	1
技術トレーニング	1
索道救助訓練	1
指導者講習(川の活動等)	1
指導法	1
資格更新に必要な講習会	1
自治体等主催の講習会参加	1
自然環境	1

訓練内容	回答数
自然観察指導員講習	1
実地研修	1
心理学	1
水辺の安全講習	1
接客トレーニング	1
日々、救助法の確認、練習	1
非常時対応訓練	1
北海道学	1
理念	1
話し方	1
計	112

(3) 今後、社内で、新たに予定している、或いは実施したいと思っている教育訓練はありますか。

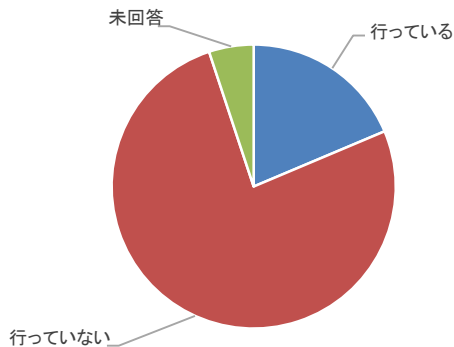
教育訓練の内容	回答数
乗馬事故、防止の教育、乗用馬調教技術の教育	1
冬季の研修(特に動物の足あとなどの痕跡をしっかりと確認したい)	1
接客についてさらに深くしたい	1
救命救急法	1
リスクマネジメント(体験活動)	1
レスキュースレッドを用いた救助訓練	1
ボランティア向けインストラクター教育	1
接客	1
外国語	1
救命救急法	1
ロープレスキュー、ツリーイング	1
ライフセーバー	1
SRT-1 リフレッシュ RAJ レスキュー	1
乗馬、トレッキング訓練	1
主に夏冬山岳におけるより高度なレスキュートレ	1
救命救急法講習	1
アクティビティデザイン	1
ガイド認定制度の設立	1
ガイド的な基礎知識のスキルアップ、お客様の対応におけるスキルアップ、緊急時における連絡対応訓練	1
食品加工技術の取得、新商品開発の提案	1
外国人対応	1
伊豆大島ジオパークよりガイドの専門家を招へいしスキルアップ講習を実施する	1
安全管理	1

(4) 今後、外部で新たに実施して欲しい教育訓練はありますか。

教育訓練の内容	回答数
「救急救命」の講習の受講が容易になること。	1
冬季の研修(特に動物の足あとなどの痕跡をしっかりと確認したい)	1
接客について	1
ファンリレーションスキル訓練	1
リスクマネジメント、法律・運営に関するもの	1
接客	1
外国語	1
雪崩の講習	1
ロープレスキュー	1
消防との合同訓練	1
野外におけるリスクマネジメント	1
(公社)全国乗馬倶楽部振興協会で開催している講習会への参加を予定している。	1
リスクにおける訓練は何度でも行っていただいた方がいいと思います。	1
食品加工の専門的知識	1
外国人対応	1
全道ジオパークガイド講習(交流)会	1
ファミリーケーション技術	1
自然や生物の知識の向上	1

(5) 事業所として、ガイドの資質向上のため、北海道アウトドア資格取得の働きかけを行っていますか。

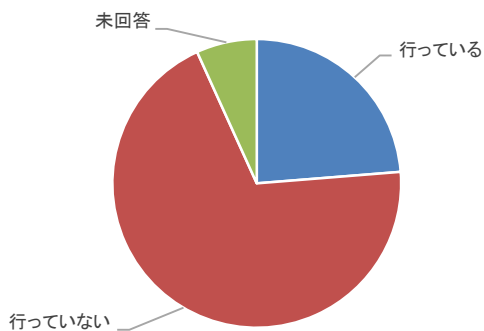
区分	回答数	比率
行っている	22	19%
行っていない	90	76%
未回答	6	5%
計	118	100%



取組内容
資格制度のPR、取得の推奨
更新講習参加
取得費用援助
必須
国際ライセンス資格者からの教育
カヌーインストラクター養成
資格取得者2名
インストラクターの育成
過去には行ったが全く有益性がなかった。
自然ガイド講習
今後取得予定
資格取得の補助
特に行っていないが紹介している
情報の周知
資格取得への援助(金銭的な)
ラフティング・自然ガイド
資格取得の為に費用バックアップ
現時点で北海道アウトドア資格を取ることにガイド個人としてメリットが無い
会社として申込み、受講している

(6) 事業所として、ガイドの資質向上のため、北海道アウトドア資格以外の資格取得の働きかけを行っていますか。

区分	回答数	比率
行っている	28	24%
行っていない	82	69%
未回答	8	7%
計	118	100%

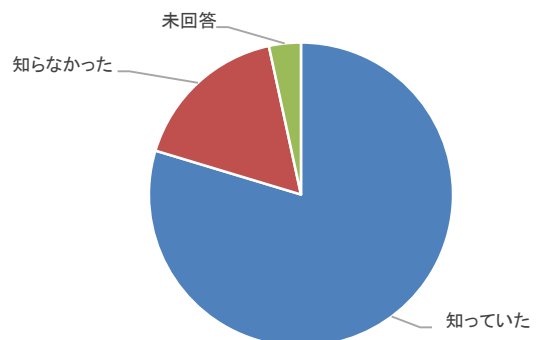


資格と取組内容
乗馬指導者資格
全乗振インストラクター 講習会の受講
小型船舶操縦士免許取得
B&Gインストラクター研修、カヌー、ヨットの操船
RAJ、SRT-1
SRT及びMFA資格
沖縄研修
空知川、ラフティングガイド資格、セグウェイインストラクター
日本オートキャンプ協会 オートキャンプ指導者
全乗協認定指導者
スキル向上になるものなら何でも
山岳ガイド資格
ネイチャーゲーム
RAJ ガイド認定制度
RAJ 山岳ガイド協会
日本自然保護協会 自然観察指導員
CONE、環境教育系
(公社)全国乗馬倶楽部振興協会指導者資格(初級・プリティッシュ)
上級救命
RAJ資格
レスキュー3
スィフトウォーターレスキュー

## 2 北海道アウトドア資格制度について

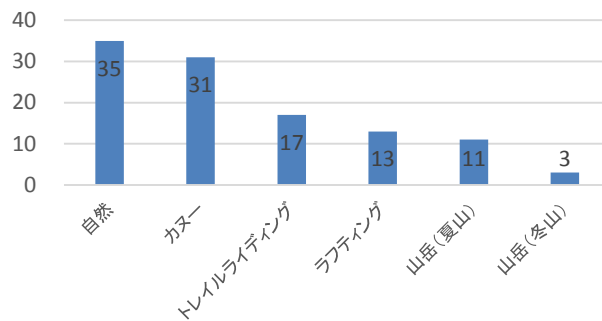
【質問5】 北海道アウトドア資格制度を知っていましたか。

区分	回答数	比率
知っていた	94	80%
知らなかった	20	17%
未回答	4	3%
計	118	100%



【質問6】 貴事業所のガイド・インストラクターのうち、北海道アウトドアガイド資格を保有している方がいる場合その人数を記載ください。

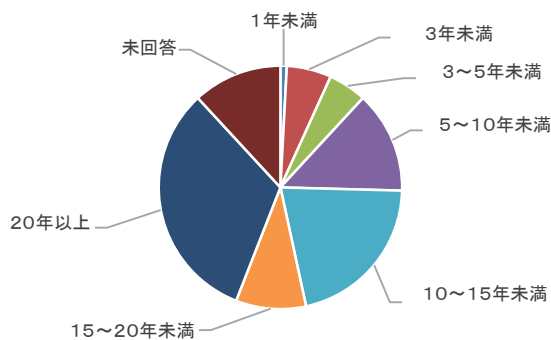
区分	ガイド数	比率
自然	35	32%
カヌー	31	28%
トレイルライディング	17	15%
ラフティング	13	12%
山岳(夏山)	11	10%
山岳(冬山)	3	3%
計	110	100%



### 3 貴事業所が提供するアウトドア体験サービス・経営状況・経営課題について

【質問7】 アウトドア体験サービスの実施年数は何年ですか。(○は1つだけ)

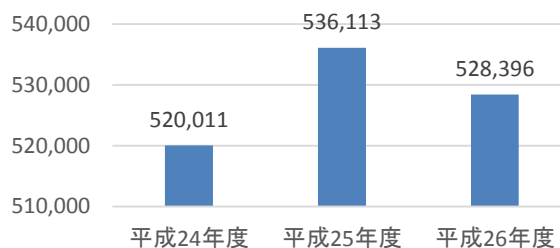
区分	回答数	比率
1年未満	1	1%
3年未満	7	6%
3~5年未満	6	5%
5~10年未満	16	14%
10~15年未満	25	21%
15~20年未満	11	9%
20年以上	38	32%
未回答	14	12%
計	118	100%



【質問8】 過去3年間の概ねの利用客数を記入してください。

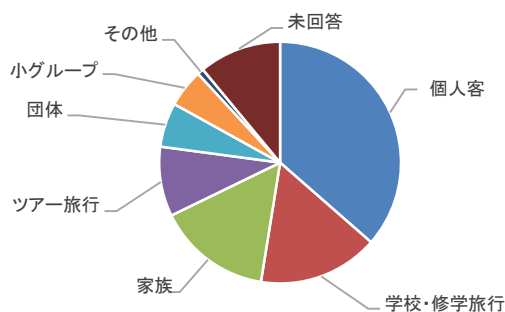
回答93事業者合計

平成24年度	平成25年度	平成26年度
520,011	536,113	528,396



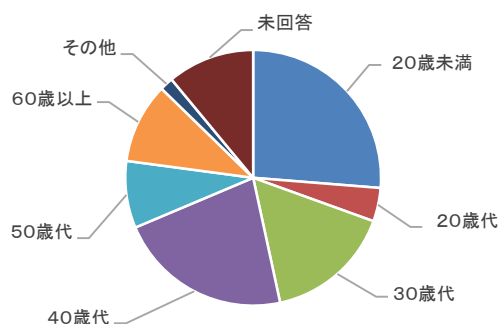
【質問9】 最も多い利用客の形態は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
個人客	43	36%
学校・修学旅行	19	16%
家族	18	15%
ツアー旅行	11	9%
団体	7	6%
小グループ	6	5%
その他	1	1%
未回答	13	11%
計	118	100%



【質問10】 最も多い利用客の年齢層は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

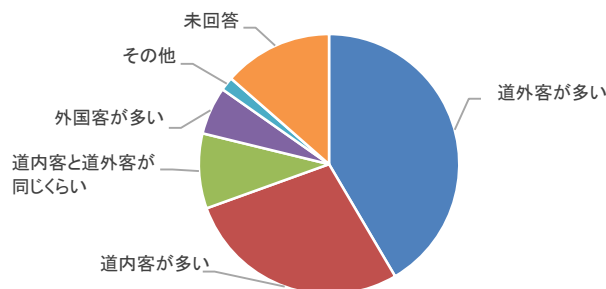
区分	回答数	比率
20歳未満	31	26%
20歳代	5	4%
30歳代	19	16%
40歳代	26	22%
50歳代	10	8%
60歳以上	12	10%
その他	2	2%
未回答	13	11%
計	118	100%





【質問11】 利用客の道内・道外比率は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
道外客が多い	49	42%
道内客が多い	33	28%
道内客と道外客が同じくらい	11	9%
外国客が多い	7	6%
その他	2	2%
未回答	16	14%
計	118	100%

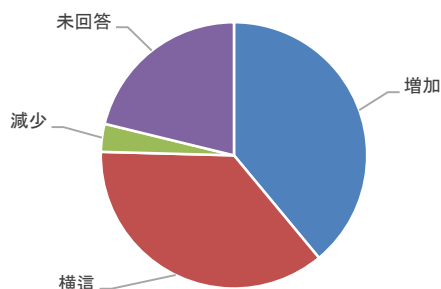


【質問12】 外国客は5年前(平成22年度)と比較してどう変化しましたか。

次のうち当てはまるもの1つに○をつけてください。

また、昨年度の外国客が利用客全体に占める概ねの割合を記入してください。

区分	回答数	比率
増加	46	39%
横這	43	36%
減少	4	3%
未回答	25	21%
計	118	100%



《外国人の割合》

割合	回答数	割合	回答数
8%	1	1.5%	1
7%	2	1%	21
6%	1	0.5%未満	19
5%	2	なし	22
3%	4	未回答	39
2%	6	計	118

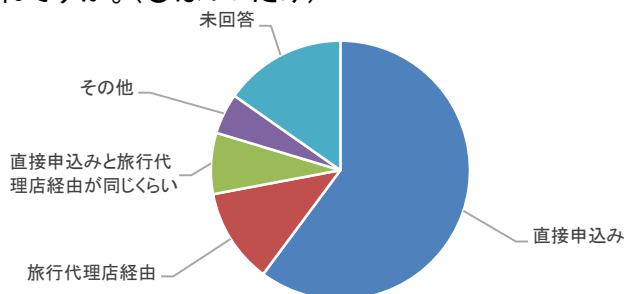
【質問13】 利用客の募集方法を記入してください。(複数回答可)

募集方法	回答数
HP	95
パンフレット	36
口コミ	36
旅行代理店	33
雑誌広告	27
新聞広告	7
チラシ	6
リピーター	5
学校への営業	4
市・町広報誌	4
SNS	3
ポスター	3
WEB広告	3
予約サイト	3

募集方法	回答数
ホテルとの提携	3
イベント	2
広告	2
提携ホテルのCM	1
周辺施設の情報掲示板	1
地方公共団体による広告・HP	1
アウトドアショップ紹介	1
エコツアー仲間の紹介	1
AGT	1
フリーペーパー	1
DM	1
施設館内掲示	1
ユースホステル協会	1

【質問14】 最も多い利用客の申込方法は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
直接申込み	71	60%
旅行代理店経由	14	12%
直接申込みと旅行代理店経由が同じくらい	9	8%
その他	6	5%
未回答	18	15%
計	118	100%



【質問15】 提供している各アウトドア体験サービスについて記入してください。

(1) 北海道アウトドア資格制度対象5分野に関する次の体験サービスを提供している場合、担当するガイド・インストラクター数及び過去3年間の概ねの利用客数を記入してください。

回答事業者 114事業者

体験サービス名	回答事業者数	担当ガイド・インストラクター数	利用者数		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
自然(自然観察、自然トレッキング等)	41	208	23,000	21,232	22,988
ラフティング	17	113	69,548	68,054	79,653
カヌー	26	110	25,070	26,090	28,799
ホーストレッキング	28	96	28,498	30,813	33,416
登山	13	16	317	296	472
計	-	543	146,433	146,485	165,328

(2) 上記(1)以外で提供しているアウトドア体験サービスについて記入してください。

体験サービス名	回答事業者数	担当ガイド・インストラクター数	平成24年度利用者数	平成25年度利用者数	平成26年度利用者数	計
スノーモービル	9	58	29,420	33,600	37,560	100,580
4輪バギー体験	2	5	27,000	29,500	31,500	88,000
フィッシング	9	22	10,909	10,792	12,898	34,599
熱気球	3	6	11,000	10,500	11,800	33,300
乗馬	1	1	1,168	2,344	2,354	5,866
スノーシュー	17	37	1,683	1,821	2,336	5,840
いちご狩り体験	1	0	2,000	2,000	2,200	6,200
子どもの自然体験camp	1	5	2,000	2,000	2,000	6,000
畑ガイドツアー	1	12	150	1,000	2,000	3,150
ワカサギ釣り	3	15	1,688	1,783	1,833	5,304
ひまわり道路体験	1	0	1,500	1,500	1,700	4,700
雪遊び	1	5	800	1,500	1,500	3,800
シュノーケル	1	2			1,300	1,300
ダッキー	2	21	1,200	1,200	1,200	3,600
MTB	3	8	450	450	1,150	2,050
島巡りツアー	1	10	2,780	1,780	1,000	5,560
グライダー体験	1	2	808	926	995	2,729
ボートオリエンテーリング	1	10	1,350	1,150	980	3,480
野外炊事等	1	4	250	650	920	1,820
遊覧船	1	1	150	285	866	1,301
農業体験	2	6	780	900	780	2,460
農業・漁業体験	1	0	1,608	310	633	2,551
ダイビング	1	3			600	600
酪農体験	1	5	500	500	500	1,500
クラフト体験	1	4	705	1,240	490	2,435
溪流フィッシング	1	3	400	350	450	1,200
キャットツアー	1	3			437	437
犬ぞり	2	4	295	417	424	1,136
MTB(修学旅行)	1	6	400	400	400	1,200
イカ釣り体験	1	1	300	320	380	1,000
カーリング	2	7	174	241	374	789
シーカヤックあざらしツアー	1	2	300	285	317	902
イグルー	1	4	52	170	260	482
XCSキー	2	9	230	230	230	690
自然観察	1	1	150	160	180	490
文化歴史事業	1	4	250	200	180	630
マウンテンバイク	1	5	100	100	100	300
仔馬のダッコ	1	1	50	65	78	193
馬の散歩	1	1	60	60	70	190
貝殻アート工芸体験	1	3	30	20	50	100

体験サービス名	回答事業者数	担当ガイド・インストラクター数	平成24年度利用者数	平成25年度利用者数	平成26年度利用者数	計
スキー	1	1	50	40	30	120
ハンティング	1	1	20	20	30	70
樹液採取体験	1	2	20	25	30	75
自然ガイド	1	25	25	30	25	80
サーモンフィッシング	1	0	0	0	20	20
ツリーイング	1	6	22	13	20	55
厩舎掃除、えさやり	1	2	5	7	7	19
いかだ作り、下り	1	7	18	8	6	32
サイクリング	1	1	2	4	6	12
昆布干し体験	1	2	2	3	3	8
ウニ・ツブ・ホタテ手づかみ体験	1	5				0
ホエールウォッチング	1	0				0
総計	-	348	102,854	110,899	125,202	338,955

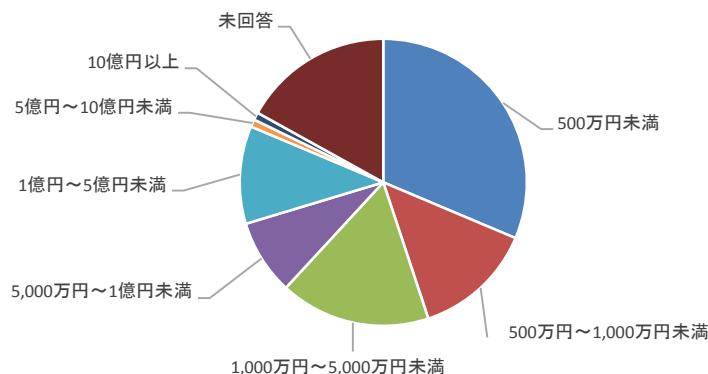
【質問16】 今後扱いたいアウトドア体験サービスがあれば記入してください。(複数回答可)

体験サービス名	回答数
スノーモービル	2
フットパス	1
登山、自然トレッキング	1
森林セルフケア体験会	1
SUP	1
キャットによるハイクダウンツアー	1
アウトドア以外	1
軽登山、トレッキング、リバーカヤックツアー	1
カヌー、ラフティング	1
ツリーイング、キャンピング、アウトドアトレッキングなど	1
雪のスポーツ	1
フィッシング、果物狩り	1

【質問17】 貴事業所の直近1年間の売り上げは、次のうちどれですか。  
また、そのうちアウトドア体験サービスにおける売上と割合は、概ねいくらですか。

区分	回答数	比率
500万円未満	37	31%
500万円～1,000万円未満	16	14%
1,000万円～5,000万円未満	20	17%
5,000万円～1億円未満	10	8%
1億円～5億円未満	13	11%
5億円～10億円未満	1	1%
10億円以上	1	1%
未回答	20	17%
計	118	100%

《アウトドア体験サービスにおける売上》		
売上金額	回答数	比率
5千万円以上	4	3%
3千万円以上 ～ 5千万円未満	2	2%
1千万円以上 ～ 3千万円未満	16	14%
3百万円以上 ～ 1千万円未満	19	16%
百万円以上 ～ 3百万円未満	7	6%
50万円以上 ～ 百万円未満	2	2%
30万円以上 ～ 50万円未満	4	3%
10万円以上 ～ 30万円未満	4	3%
10万円未満	5	4%
売上げなし	7	6%
未回答	48	41%
計	118	100%

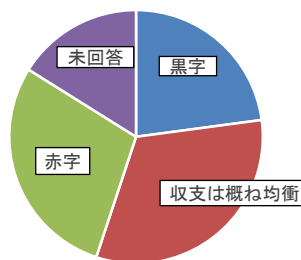


《アウトドア体験サービスにおける売上の割合》		
割合	回答数	比率
10割	18	15%
9割以上 ～ 10割未満	4	3%
8割以上 ～ 9割未満	4	3%
7割以上 ～ 8割未満	2	2%
6割以上 ～ 7割未満	4	3%
5割以上 ～ 6割未満	5	4%
4割以上 ～ 5割未満	2	2%
3割以上 ～ 4割未満	3	3%
2割以上 ～ 3割未満	3	3%
1割以上 ～ 2割未満	8	7%
1割未満	14	12%
売上げなし	10	8%
未回答	41	35%
計	118	100%

【質問18】 貴事業所全体の直近1年間の経営状況(事業収支)は、次のうちどれですか。  
また、アウトドア体験サービスの直近1年間の経営状況(事業収支)は次のうちどれですか。

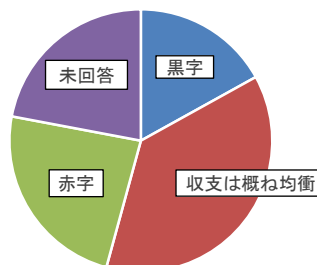
貴事業所全体は、

区分	回答数	比率
黒字	27	23%
収支は概ね均衡	38	32%
赤字	34	29%
未回答	19	16%
計	118	100%



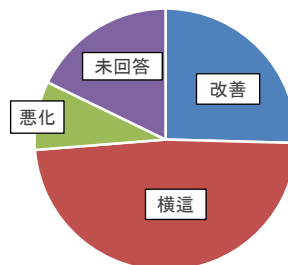
アウトドア体験サービスは、

区分	回答数	比率
黒字	20	17%
収支は概ね均衡	44	37%
赤字	28	24%
未回答	26	22%
計	118	100%



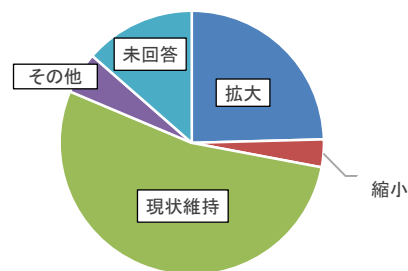
【質問19】 アウトドア体験サービスに関する経営状況(事業収支)は、5年前(平成22年度)と比較してどう変化しましたか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
改善	30	25%
横這	57	48%
悪化	10	8%
未回答	21	18%
計	118	100%



【質問20】 アウトドア体験サービスの今後の方向性は次のうちどれですか。(○は1つだけ)

区分	回答数	比率
拡大	29	25%
縮小	4	3%
現状維持	63	53%
その他	6	5%
未回答	16	14%
計	118	100%

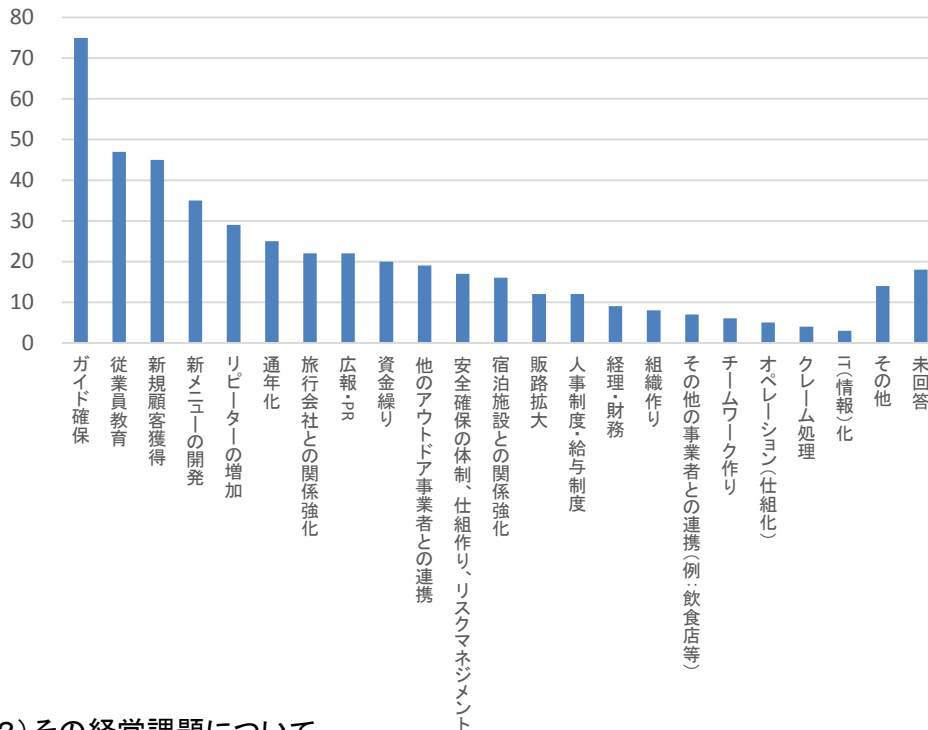


【質問21】

(1)アウトドア体験サービスを提供するうえでの経営的な課題(悩み)は何ですか。(複数回答可)

区分	回答数	比率
ガイド確保	75	16%
従業員教育	47	10%
新規顧客獲得	45	10%
新メニューの開発	35	7%
リピーターの増加	29	6%
通年化	25	5%
旅行会社との関係強化	22	5%
広報・PR	22	5%
資金繰り	20	4%
他のアウトドア事業者との連携	19	4%
安全確保の体制、仕組み作り、リスクマネジメント	17	4%
宿泊施設との関係強化	16	3%

区分	回答数	比率
販路拡大	12	3%
人事制度・給与制度	12	3%
経理・財務	9	2%
組織作り	8	2%
その他の事業者との連携 (例:飲食店等)	7	1%
チームワーク作り	6	1%
オペレーション(仕組化)	5	1%
クレーム処理	4	1%
IT(情報)化	3	1%
その他	14	3%
未回答	18	4%
計	470	100%



(2)その経営課題について

最も大きい課題を3つまで選び、その詳細を教えてください。

【課題】

- 1 ガイド確保、2 従業員教育、3 新規顧客獲得、4 リピーターの増加、5 通年化、6 新メニューの開発、7 旅行会社との関係強化、8 宿泊施設との関係強化、9 他のアウトドア事業者との連携、10 その他の事業者との連携(例:飲食店等)、11 資金繰り、12 経理・財務、13 広報・PR、14 販路拡大、15 オペレーション(仕組化)、16 人事制度・給与制度、17 組織作り、18 チームワーク作り、19 クレーム処理、20 IT(情報)化、21 安全確保の体制、仕組作り、リスクマネジメント、22 その他

回答番号	詳細内容
1	資質のないガイドの教育体制の整備(教育養成官)
1	専従者が少ないこと。高齢化が進んでいる。
1	居住できる場所から勤務地が遠いため応募が少ない。
1	アウトドアガイドを生涯の仕事としてやっていこうという若い人材がなかなか見つからない。
1	ガイド運転免許
1	地域におけるガイドの担い手が少ない。
1	専門性が高く教育に時間がかかる上、若年層のアウトドア離れにより、基礎的な経験を持った人材が減少している。
1	人材の確保(雇用形態の確立)
1	ガイド高齢化、若手参入の鈍化
1	ガイドの通年雇用化
1	長年にわたりガイドをする人材が少ない。
1	人員不足。募集してもこない。
1	通年・長期での雇用
1	ガイドではないが、優秀な指導員の確保。現在も公募しているが、応募が少ない(嘱託職員待遇)。

回答 番号	詳細内容
1	ガイドを認定する仕組みがない。
1	若い人材が集まらない。現有ガイドも高齢化が進み、若いガイドを育成したい。
1	専門知識を有するガイドの確保
1	メンバー数も少なく、高齢化も進んでいるので、後継となるメンバーを増やしたい。
1	人材確保
1	高齢化による後継者不足
1	質の高いツアーを提供するためには良いガイドの確保、ガイドの教育が課題だと思います。
1	単純労働のアルバイトと違い、ガイド業務ができるようになるにはある程度の年数が必要だから、ガイドという仕事の賃金、社会的地位・認知不足のため数年で辞めてしまうケースが多い。
1	十分な賃金の確保
1	ガイドの高齢化
1	業界の縮小とともに、ガイド数が不足しはじめた。
1	質の高い人材確保が難しい。
1	専門性職員の確保(長期に渡り)
1	若いガイド(ガイド志望)がなかなかいない。
1	アクティビティの種目により、新たなガイド(有資格者)が必要になる。
2	どれだけの人が興味を持ってくれるかわからないので、従業員を増やすことに悩んでいる。
2	熟練した技術を必要とすること
2	新たなスタッフが入っても長く続けられない人もいる。
2	繰り返し来ていただくには交通費を含めた料金設定を考える。
2	目先の仕事をこなすだけでなく、会社の利益を上げるために何をすべきか、また、お客様に満足してもらえるために何をすべきかを考えた仕事をする。
2	ガイドによりスキルにムラがある。
2	従業員の対応次第でリピート率も向上できる。
3	個人事業所は、それぞれの事業所のカラーや雰囲気が魅力だと思っています。 そのカラーを求めているお客様とどのようにしたら出会えるのか、が課題です。
3	少ない広告宣伝費でどう営業をしていくか…
3	お客様の95%以上が本州の方なので、交通費を含めたサービス提供が必要と考える。
3	観光地ではないので、知名度・目玉となるものが少ない。 新規顧客となり得る客層への情報提供が難しい。
3	利用客数の減少
3	外国人客は増加しているが日本人客が減少している。日本人客を戻したい、増やしたい。
3	北海道民自体、乗馬を趣味と考えている人が少なく、道外からの観光客にもまだ認知されていない。
3	新規顧客獲得
3	特に20代~30代のお客様が少ない。
3	あまり新規顧客が来ない。リピーターも減少気味。
3	アウトドア体験サービスを開始してからの年数が浅く、まだ顧客そのものが少ない。
3	乗馬についてはインストラクターの資質が問われる
3	情報発信が足りないのか、人口減のためか家族参加型の利用が少なくなっている。
3	良質なサービスは提供できていると思うが、宣伝が難しい。
3	新規ユーザー開拓
3	他にはない個性の取組
3	道外の中学、高校生の学校への訪問
3	利用者のほとんどが町内の小・中学生(無料)のため、売り上げにつながっていないのが現状。 観光客の利用向上を促す仕組みづくりが必要。
3	現状ではリピーターの利用ばかりなので、新たな顧客でさらなる利用増を図りたい。
3	外国人の体験利用はとて少ない。
3	新メニューの開発による、従業員不足 訓練の資金調達
4	利用客が金額以上に楽しめるようなガイドをしたい。
4	事業実施に当たり、いかに魅力的であり印象深いものにするかが、リピートにつながるものと考えられるが、常に苦慮するところである。
4	利用客に満足してもらい、リピートしてもらえるようなサービスをするために考えている。
4	特にない。
4	再度来館していただくことに、どうお客様に働きかけるか…
4	個人利用者へのアピール不足か、地元の利用者を増やさないとリピーター増につながりにくい。
5	3、4、11、12月は、夏・冬メニューどちらにも含まれない時期でおすすめメニューを提供できていない。
5	夏と冬では、お客様の来店、雇用も全てが難しくなる。
5	オフシーズンを海外でツアーを組む。
5	従業員がいない。

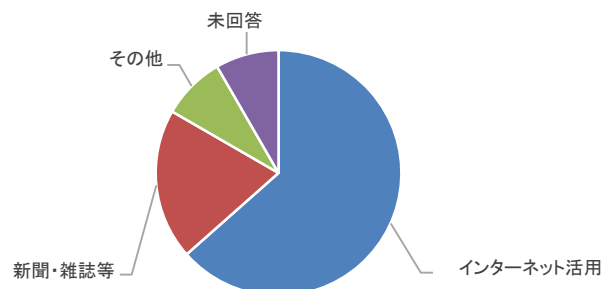
回答 番号	詳細内容
5	通年を通して売上げが均一でない
5	当施設は夏期(5月～10月)営業の為、通年営業が出来れば新たな利用者増が見込める為。
5	5月中旬～10月中旬までがシーズンと云っても良い位、特に冬季の業務が殆どない (積極的にPRをしていないことも有る)
5	通年化
5	冬期のみしか営業したことがなく、夏期における利用客減少が想定されるため
5	夏と冬でガイドの人数がちがうため冬の受入があまり出来ない。冬も力を入れるためには、 ガイドを通年で雇いもっと冬を力を入れると通年で雇うことが出来る。
5	上記と連動する
5	冬期に人を雇用することが難しい。(資金的に)
5	鮭を使った体験や雪に影響される体験が多い
6	事業開発するのに、予算が無く実行できない部分がある
6	新メニュー開発に伴う、指導者の確保(現状の職員では対応できない)
6	リピーターを増やす為には新しいメニューの開発が不可欠。
6	冬期アクティビティの開発と、実施コース(地域、場所)の選定
6	あらたな公益目的事業の策定にあたっては、既に行っている事業においてアンケートを実施、 新たなニーズを見逃さぬ様注意している。
6	ネタがつきてきた。
6	海外からのお客様の増加、シニア層を含む3世代旅行の参加等、 客層の変化に対応したメニュー作りの必要性を感じます。
6	利用客が飽きないよう新メニューを開発していきたい。
6	上の3とダブルかも知れないがマスコミがとりあげてくれる様なものになるように
6	リピーターが多いので、新メニューにより新たな顧客層を見つけたい。
7	海外エージェントの場合、予約キャンセル等が多発
7	旅行会社のツアーに組んでもらうことで団体客の増加を図ることができる
7	宿泊研修や修学旅行の団体を行っているので、旅行業者との関係維持を続けていく。
8	日帰り客は理解を充分した満足感が不足している。故に11月くらいの企画もしたい
8	現況、寺及び民泊体験で対応している
8	周辺のインフラ環境が整っていない
9	教育施設では専門性(アウトドア)+教育的視点を持った人材が不足してます。 外注して行いたい所が多数有り、連携はしたいが、近くにどの様な人材がいるか不明。
9	近隣にいる他の有料ガイド、無料ガイドの住み分け
9	地域の他業者と連携し、観光客の滞留時間をのばしたいが、 連携のきっかけや具体的な連携スタイルが見出せない
10	小さな地域なので、地域内事業者の連携が必要
10	(美術館、博物館、写真館)経営しているので横のつながり他の施設との連携
10	お互いにメリットのある関係をどう作っていくか。
11	公的サービスとして継続していくが設備の老朽化等が進んでいる
11	毎年閑散期(12月～5月)における顧客の激減で年間継続できるだけの収入が確保できない
11	現在エコツアー協議会が手配、ガイド協会がガイドを行っている 現在、手配料は旅行会社から収受しているが、ガイド協会が企業としていく場合は、資金面が課題である
11	ユニ・ツブ・ホタテ手づかみ体験を始めた20数年前より大幅に入場者が減っているため、 入場の際に徴収する「清掃協力金」が減り、遊泳監視人などに支払う賃金も余裕がなくなってきた。
11	道具や車など大きな資産を手に入れるための資金繰りが大変
11	乗用馬を生産、育成しているので大変おとなしく扱いやすいが、 乗用馬生産牧場に対する資金援助はどこからもない。
12	最近の飼料の高とうにより、経理等の事務専門者を必要になって来たと考えている。
12	上記により牧場維持に必要な飼料等の調達資金不足で借金増
12	収益化が図れていないため、現状は町の負担でツアーを開催している。
13	料金設定を可能な限り安価にしているため、広報にかける費用がない。 情報誌への記事掲載は費用がかかりすぎる。
13	個人型旅行での体験メニューの利用を増やすためのコマーシャルがパンフとインターネットでは弱い
13	集中的にツアーを募集する期間を春夏に設けているが、そこでの参加者が少ない為、 広報の仕方を工夫したいと考えている。
13	特になし
13	有料誌への掲載を含め、多くの方々に参加ただける手法を常に検討しているが、 必ずしも結果に結びつかない部分もあり苦慮している。
13	限りある予算、広報手段のため
14	北海道全体として、修学旅行の減少が止まらない。北海道として飛行機運賃の補助等が必要。



回答番号	詳細内容
14	販路拡大による集客により従業員の不足また従業員の教育訓練の資金不足
14	営業
15	手順の統一
15	上記と同様の理由で未だ手探りな状態での運営である。
16	給与等の改善をしたいが経営上難しい。
16	NPO法人であることもあり、社員に対して(特に給与面に関して)優良とはいえない
16	給与面があまり高くない(指定管理制度の為)
16	季節労働のため年収が他の業種より低いことによる人材の確保が難しい
16	スタッフ昇給制度が現段階では存在しないので、有能なスタッフの維持・確保が今後の課題。
17	サポートする人材の確保
17	正規スタッフのみでは事業をまわせず、ボランティアの援助が不可欠だが、道内在住者の人材が不足し手伝ってもらいづらくなっている。
17	売上不安定による正規雇用への難
17	ギリギリの人数で行っているため、一人かけると大変なので、内部的な業務、ガイド業務も人員に余裕を持って行えるよう人を雇いたい。
17	特にない
18	H27.4.1から運営形態を指定管理者から町営に戻して管理を行っていますが、スタッフが色々な所から集っており、年齢差、経験、馬に対する考え方も異なるため、意志の疎通を図るべくチームワーク作りに苦慮しています。
20	人材の確保
21	特にリフトは、索道の安全確保が重要と考える。
21	アウトドアは危険という(つきものである)リスクが伴うから、顧客が減る。事故予防知識の徹底教育、保険の完備。
21	野外フィールドでの安全対策
21	正式なライフセーバーではないので、安全確保の面で不安がある。
21	季節により、溪流釣り体験を実施しているが、自然動物(クマ)の恐怖が常に生じること
21	個人では、なかなか対応しきれないため。
21	ツアー中の事故などがあった場合に、メンバーに高齢者が多いため対応が難しい。事故対応の流れをメンバーにきちんと把握してもらう必要がある。
21	参加者の認識不足(リスクに対する)
22	高齢化により使用していただく回数が減少する
22	ニーズ調査
22	アウトドア事業の企業ではないため
22	設備及び人力的な問題がありサービスの拡大は難しい
22	集客方法の多様化
22	教育旅行減少の深刻化
22	台湾、中国から個人旅行も増えているが、中国語、英語対応できるスタッフが少ない。
22	受入体制(人員)の強化
22	スノーモービル保有台数を増やす為の資金不足
22	当会には若者が一名しかおらず、先が心配である。通年営業で年間所得のアップを図りたい。
22	乗用馬は人間より約4倍程早く年齢をとると言われており寿命が短いため、乗用馬の入れ替え(更新)が常につきまとう課題です。高齢となった馬の扱い方も難しい。(簡単に放出できない)
22	事業所やガイドが増えるとうしても競争原理が働き価格が下がりがちですが、生産効率をあまり高くできないガイド業は価格の維持、ツアー料金の値上げができる様な努力が必要だと思います。

【質問22】 情報発信はどのように行っていますか。

区分	回答数	比率
ホームページやSNS等のインターネットを活用している	99	63%
新聞・雑誌等に情報を掲載している	31	20%
その他	13	8%
未回答	13	8%
計	156	100%

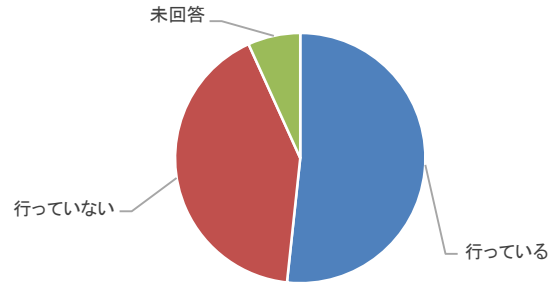




【質問23】

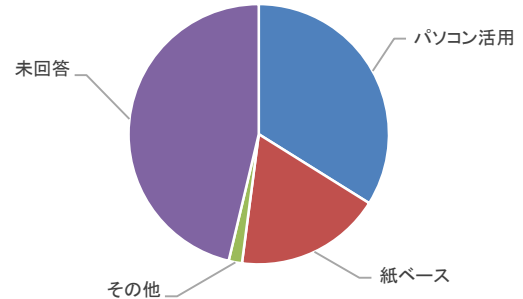
(1) 顧客情報の管理を行っていますか。

区分	回答数	比率
行っている	61	52%
行っていない	49	42%
未回答	8	7%
計	118	100%



(2) 顧客情報の管理はどのように行っていますか。

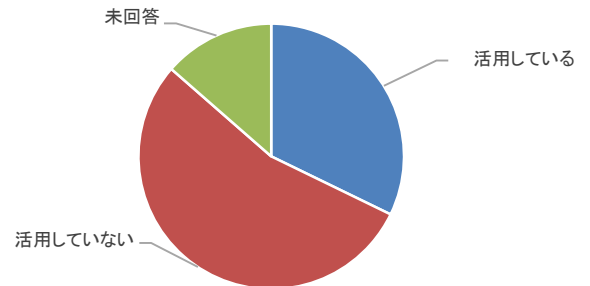
区分	回答数	比率
パソコン等を活用し、顧客管理ソフトやエクセル等で管理している	41	34%
紙ベースで管理している	22	18%
その他	2	2%
未回答	56	46%
計	121	100%



【質問24】

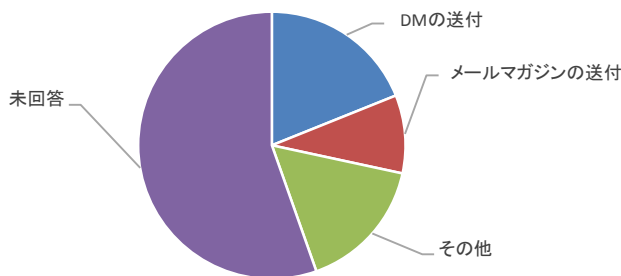
(1) 顧客情報を活用していますか。

区分	回答数	比率
活用している	38	32%
活用していない	64	54%
未回答	16	14%
計	118	100%



(2) 顧客情報の活用はどのように行っていますか。

区分	回答数	比率
DMの送付	28	19%
メールマガジンの送付	14	9%
その他	24	16%
未回答	82	55%
計	148	100%



《その他の内訳》

回答内容
再利用してくれるような案内を出す
過去の利用確認
利用者住地域への営業
申込書データ解析
AGTへのアピール
事業チャンの送付
翌年以降のマーケティングに活用
会報誌等の送付
メールでの広報
写真(体験中)の送付
リピーター確認・終了後の郵送(忘れ物・報告書・DVD等)
食材販売
リピーターの把握・対応

【質問25】 アウトドア業界が発展していくためには何が必要と考えますか。

詳細内容
アウトドア事業者への啓蒙教育
アウトドア事業者への行政面からの支援策
就業するガイドの待遇改善

詳細内容
<p>地道で息の長い努力が必要と思います。 質の良いガイドを育てることで。質の良いガイドはお客様はもちろん、添乗員さん、ドライバーさん、バスガイドさん、旅行代理店の方々など、個人ツアーであれ、団体ツアーであれ、お越しいただくお客様に関わる多くの方々に対しても誠実な対応をします。 誠実な対応は心に残り、リピーターにつながりますし、あるいは受けた感動とともに周りの方々に伝えてくれます。また、引き継がれることもあるでしょう。 誠実さをもって対応すること続けていくと、信頼を得ることができます。 発展させていくためには、信頼が第一と考えます。 時間はかかりますが中途半端なことはせず、厳しくともやり通すことです。 外国人の利用者のマナーが悪いので当クラブでは受入れをしていない。 もっと道外はもちろん、道内の利用が増えると良いと思う。 なかなか専門にするには難しいと思っている。</p>
ガイドの社会的地位の向上
アウトドアガイドの社会的地位の向上
<p>通年雇用の会社を増やし、沖縄みたいに価格破壊をしないこと 横のつながりと情報開示(知人等を介して知っている人がいる。) しかし、自分の住んでいる所にどのような資格を持って活動しているかまったく不明。 北海道のアウトドア業界全てが情報開示(個人情報の問題はありますが)して、近くにいる人材を利用する制度にしない限り発展していかないように思います。</p>
<p>道内全てのアウトドア事業所の宣伝、ホームページ等での告知が必要と思います。 (例)道庁のホームページ等で紹介する。</p>
<p>専門知識を高め、質の高いサービスを提供する。また、提供できる人材の確保と育成。 アウトドア業界全体に言えることだが、給料が安く、安定しないため、一定の年齢を超えると離職せざるを得ないように思う。 若者の使い捨てにならないような雇用が必要(行政支援含む。) フィールド管理、自然相手なので、環境に与えるダメージを考慮した活動をすべき。 保全なくしては継続は不可能。</p>
道内外や海外へ向けたPR
<p>自治体や地域の方々の理解と協力 一般道や農道を利用するため、近隣の交流や理解は重要 宿泊施設や公共施設との連帯 業界の経営環境、雇用環境整備</p>
<p>外国人従業員の雇用において入国基準の緩和と養成期間の短縮が肝要 北海道からも関係行政に至急の改善を働きかけていただきたい。</p>
<p>余暇時間(特に長期)の確保 幼少期より野外に親しむ状況作り</p>
<p>地元行政側の観光業、アウトドア体験サービスへの理解、協力 公益財団法人として、常に公益性のある事業の実施を求められている立場としては、アウトドア業界についてのみの回答は、控えさせていただきます。</p>
<p>手ぶらで楽しむことができる環境づくり、交通機関の協力(サイクルトレインなど)、ガイドの育成</p>
<p>アウトドアガイド資格の見直し ガイドとインストラクターの違いを明確に。 自然環境の保全・地域ごとの人材の育成</p>
<p>個性的、魅力のあるガイドを養成していく。豊富な知識だけでなく、楽しい話術が必要。</p>
<p>現在の中高年齢層の取り込み(顧客として)、ファミリー層(子供)の取り込み ガイドがいる＝安全・楽しいのイメージの推進(⇨非ガイド)との差別化</p>
<p>国、事業者、利用客の意識改革 職業、産業としてのステイタス、安定化→ロールモデル 経済発展、景気上昇、国民の休日システム インバウンド受入システムの発展・品質、安全管理</p>
<p>前問でも解答したがガイド等の賃金が低いため季節労働となる。一般サラリーマン程度の賃金確保が課題。 北海道の大自然を求める人々は(今の情報社会にがんじがらめにされた人々)今後増えると思います。 旅行社とのタイアップ、他事業(アウトドア)者との提携とともに、きめ細かな案内が必要ですが、小さな個人事業者には、宣伝するにも資金が限界があります。</p>
<p>航空運賃の修学旅行料金が高い！ カルチャー体験との融合</p>
<p>インチキ試験官を辞めさせ、新谷暁生氏を総試験監督にするとインチキガイドが減り健全なガイドが残り、業界全体の安全化ができる。ゲレンデごとに、危険レベルが違うのに同じ試験を受かるとどのゲレンデでもガイドできると思う合格者が多いのが問題。ガイドのスキルとレスキューレベルが高まれば、道外、海外のお客様も安心してプレイできる。</p>
PR

詳細内容
とくに考えていない
質の高いガイドの確保。実際のニーズに対してガイドが足りない。 実際に必要な知識と経験を講習や勉強会を通して積み重ねることが好ましいが、特に冬はインターナショナルなニーズに合わせた動きが必要。
何年も前からこのような件について調査があり、どのように進展しているか見ていたのですがあまり進んでいないように思う。
従業員の賃金の向上。若いスタッフが定着しない(できない)理由の1つ。
スキルを持たれたガイドの方々の通年雇用を含めた身分保証
アウトドア業界の定義が、質問内容からも狭義だと思う。 地域行政サービスの連携など、地域活性化のための業務、子どもの自然体験型環境教育など、観光のみの側面では、ダメだと思う。
自治体、行政が理解してもらうこと。自治体、行政との連携。
スポーツには危険が伴うという前提条件を承知してもらうこと。 その上で、でき得る限りの安全対策を講じること(※ただし、安全策だけだと楽しさが半減する場合がありますので、その兼ね合いが難しいと思いますが…)。
地域の魅力を掘り起こすこと
アウトドアメーカーと地域活動との連携
仕事があれば、都会からガイドをしたい人材を呼ぶことができると思う。 現在の業務ではそのような機会がないため、何かいいアイデアがあり、事業があれば参画したい人材が増え、お客様も増え、安全面に関しても目が届くように(もっと)なる。 人材確保と育成が一番だと思う。 ガイドの質、ガイド会社の質の向上のため、アウトドアガイド資格をなんとか全事業所に取得してもらえよう、ガイド事業者の連携で下から上へあげて行けばいいのかと思う。 業務センターもガイド事業所、ガイド、新規資格取得者へ資格取得へ働きかけているため、資格取得者も年々増加しているので、私たちも(ガイド事業者)がんばらなければならないので道庁の方々にも協力願いたいと思っています。
日常を体験できるプログラム、適正な体験料、スタッフの育成
人材育成。自然の情報も大切ですが、コミュニケーション能力の育成、自然と人(ガイドさん)を好きになってもらう。
顧客のニーズの把握
ニーズや年齢層、希望する難易度に沿ったアクティビティ選択をしてくれるコーディネーター どんどん新しい団体が増えて行くのもいいと思うが、特にお年寄りばかりになっている既存の団体に若者が入っていきけるような仕組みが必要のように思う。知識や経験を受け継いでいけたらいい。
自然体験はやめると、自然の物をただ採って来て安上りと思わせては自然破壊になってしまうので自然の保護を先に教育して行くべきものです。
特にジオパークガイドについては、自所のガイドのみならず、広域的な観点から、日本国内、道内の他ジオパークの知識やスキルをレベルアップすることが必要(ユネスコでジオパークが正式プログラムとなったため)
交流により技術・啓発を相互におこなうべき
うちの牧場では、乗馬を行っています、1年を通しての集客ができていません。 もっと雑誌やネットを活用して、アピールしたいのですが、大変お金がかかるので、できていません。 各地域に、アウトドアに関する情報が得られるインフォメーションがあると、そこを中心にして、いろいろな事業者とのつながりを作り、もっと情報を提供しやすくなるのではないかと考えております。 アウトドア情報センターを作っていたら、人のことばで情報を広めてもらえる場所があるといいなと思います。
各々の地域で年間を通してガイドが本職として働ける環境が必要だと思いますが、北海道は夏も冬も働けるリゾートが多く、又海外マーケットにも人気がある為、恵まれた環境だと思います。 この状況を維持、発展させるためにはガイドの質の向上、質の均一、安全管理等が必要です。 そんな意味でもガイド資格制度は期待しています。
幼少期における体験活動として行うことは必須と思われます。 その時期にアウトドアの魅力を感じさせられるかどうか、大人になった時にアウトドアスポーツとどう向き合うか決まってしまう。
理屈抜きに、自然活動における感動体験、成功体験を幼少期に行うこと。
アウトドア=自然=一般的になにもない所 業界に関係してない方々の、上記の様な考えを取り除き、地域ぐるみでアウトドア産業を理解し、盛り上げていかなければ資源はあっても活用できないのではないかと 観光客がタクシーに乗って「どこかおもしろい所ない?」と聞かれ、「いや～この街はないも無い所だから」と返事をする様ではダメだと思います。
ガイドという仕事の待遇、社会的地位向上 北海道がアウトドア体験の先進地であるという行政としての取組 自然環境の保護(ムダな森林伐採中止や必要のないダム)の撤去)

詳細内容
自然観察のガイドに適正な対価を支払うという社会的コンセンサスが必要だと思います。 海外では専門的知識を持った人物がガイドを行う場合、参加者がそれなりの高い費用を払うのが当然、といった感覚があるようですが、日本では自然観察は無料あるいは極めて安価に行うことができる、と一般的には思われているようです。 ガイドは質の高いサービスを提供し、それに見合った金額の設定をしていくことが重要だと思います。
景気上昇
積極的に参加するためには国の助成が無ければ無理。費用を出せません。
有能な人材と教育
よくわかりません
アウトドアの様々なジャンルを、包括しあえる団体を作り、事業所単位ではなく「オール北海道アウトドア」を宣伝し、連携する活動を行う。
各地域のワンストップ窓口の充実。つまり、各体験事業者の情報をしっかり熟知した体験申込み窓口になるような組織。
①事業計画に基づき、補助金制度 ②環境を生かした(または、四季)を生かした、アクティビティの販売促進の為、規制区域の緩和
当社(クラブ)は初心者→馬術競技者の育成を主としています。
ガイドの質の向上。国や道や市からの支援、助成
その地域の独自の体験 夏: マキ割→五右衛門風呂を焚く→入浴する 冬: しばれ体験・氷の小屋作り→防寒具を着て寝る キャンドル作り体験 キャンドルを作り、点燈する イルミネーション張り体験

4 現行の北海道アウトドア資格制度の課題、アウトドア業界の発展のため、要望や意見などがあれば、ご自由にお書きください。

回答詳細
10数年前、「北海道」が他都府県に先駆け、「条例」まで設けてスタートした割には、「朝令暮改」の感が否めない。(実際にどの程度機能しているのか?) 一方、近年の北海道への観光客は、エージェントも含め「体験型」観光のニーズが高い。 今こそ事業者は「安全」「快適」なアウトドア活動に徹する必要がある。 「東南アジア」の観光客のとり込みに国をあげて取り組んでいるが、アウトドアの現場にはなじまない。 (概ね)行政面からの具体的な施策を期待する。
ある程度の技術・経験のある人には受験資格を考えてほしい。 2年待つのは長すぎます。 夏山ガイド→資格保有2年以上→冬山ガイド、カヌージュニア→資格保有2年以上→カヌーガイド
マスターガイドの認定について一言あります。 アウトドア認定ガイド歴が10年以上であれば、自己申告によって申請し、認定されると認識しておりますが、申告内容の中に評判の良さ、信頼されているなどの項目があるようですが、どちらも自分で判断するものなのでしょうか。甚だ疑問であります。 危険予測が出来ないガイド、とても信頼を得ているとは思えないガイド、体力的に自身のことで精一杯、事故が発生した時には対応できるのかを疑ってしまうようなガイドなどなど、ガイド歴が10年以上経っていれば誰でもいいってことではないはず。 最近取り入れている、アウトドアガイド資格の更新時における講習を、マスターガイド認定時にも必須にされてはいいかがでしょうか。 或いは、所属しているところの推薦などを必要書類の中にも含めるなどし、現在よりも厳しい基準で認定するべきかと思えます。 アウトドア認定資格の最高位ならば、えっあの人が?ではなく、その人ならば相応しいと、認定されたガイドの周りの誰もが納得のいく認定にすべきだと思うのです。
誰でもガイド資格を取得できることは必要だが、今年度から設けられたマスターガイドについては、もっともっと基準を高くしてもらいたい。 そして有資格者のいない事業所では営業ができないくらいの値のある資格制度になることを希望します。
ガイド試験、各種講習が同じ地区ばかりで実施されていて、参加しづらい地域の間には、億劫になりがち。道南地方にガイドが少ない一因かも知れない。
資格がなければ営業ができないような条例の制定
資格ガイドが優越的に扱われるよう旅行代理店なども含め業界に働きかけをしていただきたい。
全国で使えるような資格にしてください。また、海などに使える資格があまりないので作ってください。

回答詳細

資格を持っていても、利用する機会が少ないと資格制度自体も意味を問われると思います。  
 前段に書いたように業界全体で情報共有できるシステムを作してほしいです。  
 この情報社会の中では色々なことができると思います(無料のサイト、FB、HP、その他)。  
 私の所属するキャンプ協会も住んでいる地域にどんな人がいるか、まったく不明(情報を資格者に提示していない)。  
 利用することが非常に難しい。資格保持者がいれば利用したいが…  
 先日も、教育施設でアウトドアフォーラム2015を実施した。  
 ここでもネットワークをどう作っていくかワークショップがあったが、実施、実現するための取組みが現実味を帯びていない。  
 従って前へ進まないことが多々あります。  
 今後は横のつながり=仕事=資格=連携=人材バンク  
 気軽にやりとりできるシステムを主導して行ってほしいと願います。

当事業所はホーストレッキングを体験サービスとしていることから、ホーストレッキングに特化して技術の向上が必要と考える。  
 既存の競技馬術と違った技術を体系化し、それに適した馬の生産、育成、調教が必要と考える。

資格の有無も必要なことだが、経験に裏付けされた知識に勝るものはない。  
 資格保持者が知識・経験ともに優れた存在になるよう、フィールドでの人材育成に力を入れてほしい。

北海道も近年観光客が道外、海外から増えているようですが、温泉地や札幌、小樽、旭川近辺など片寄っているように思います。  
 田舎あたりでも自然を生かして夏冬でも少しずつ地域性を生かして顧客を取り入れたアウトドアが発展してほしいです。  
 けっこう馬などの体験馬ソリ冬遊びや観光農園など短期移住、羊やアルパカ等の動物とのふれあいなど北海道らしいと思います。

趣味の延長になるような資格制度では事業者にとって無価値に等しい。  
 例えばフランスのスキーガイド、インストラクターの国家資格制度のように有資格者が従事した場合、生活ができる社会環境が必要。  
 日本の旅行会社は価値観の創造よりも値引、ディスカウントに注力し過ぎている。  
 過去に会社として北海道アウトドアガイド導入時に奨れいして資格取得したが、当時の運用のひどさに全員更新せずに今日に至っている。  
 現在もHPを見る限り受託事業のページは4年も更新されていません。  
 このような調査の前にやるべきことがあるのではないのでしょうか。

当協会は、公益財団法人として多種多様な公益目的事業を行っており、その一部が自然観察会であり体験学習教室等となります。  
 しかし、事業実施に当たり専門家の関与が求められていることから、その都度各方面から講師を招き実施しているところではありますが、一般業者と違い実施する場所が公園及びその施設に限られております。  
 したがって、アウトドア有資格者との接点はありません。  
 ただし一部の委託業務において必要となる場合は、資格保有者に業務の一部を委託する形態をとっていることから、雇用することはありません。  
 また、自然観察会などでの講師はアウトドア資格保有者ではなく、学識経験者を雇用しており講師として事業を行っています。  
 以上のことから、【質問3】の(6)及び(7)、【質問15】の(2)、【質問17】から【質問20】までは無回答とさせていただきますのでご了承ください。  
 また、【質問12】につきましては、現時点で外国人の参加者はおりません。

北海道が進むべき観光のあり方をしっかりと確立し、そこを見つめて進んでいただきたい。  
 資格保有者を対象としたガイド保険、弁護士が欲しい。  
 資格所有者を対象とした税理などのアドバイス、人材。  
 安全にツアーを運営するため(業者向け)の講習会-RM,-1st Aid等,-雪崩,-SRTやMFA等

制度のメリットが実際のビジネスシーンと結びついていない。→形骸化? 何のため、誰のための組織なのか経費も?  
 資格が無くても問題なく商売している事業者も多数。  
 教育のカリキュラムに取り入れる等、身近な課目にすべき。  
 業界を担う若者を教育するシステムに力を入れるべき。  
 業界で食べて行ける視点(レジャーだけでなく職業)。

資格制度は必要と考えるが資格だけが一人歩きし、アウトドア業界が土木、建築業界のように資格確保から落ちた事業者及び個人の意欲が阻害されると考える。  
 また、資格取得に伴う時間、費用も必要であるため、新規参入者のハードルが高くなると考える。  
 安全、安心は誰もが願うことであり、1日程度の講習受講で得られる資格制度があるとアウトドア業界は発展していくと考える。

北海道アウトドア資格制度についてよく知りません。  
 取りやすく、必要なものであればもっと周知してもらえたらと思います。  
 北海道が修学旅行の飛行機運賃の補助が必要。

回答詳細
<p>日本で1番レベルの高いJSCAの合格者が北海道アウトドア試験に落ちるのは、愉快だ。 道内の試験官より道外のレベルの高い試験官も採用すべきと思う。 ゲレンデの危険レベルに合わせて試験ランクを付けてはどうか。 リタイアした高齢者、大学生等が合格しても仕事が無いのは当たり前なので、現状ガイドの仕事をしている方々から優先的に講習・受験をさせるべきであった。</p>
<p>弊社は、夏のガイド業のメインがラフティングで、RAJという団体に加入して情報交換や技術向上に活用しています。 このような団体とお互いにとってプラスになるような協力や連携ができると良いと思う。</p>
<p>これも数年前から問題になっていた、資格制度のPR不足。 資格に対する講座を道内各地で実施すべきだ。 資格試験も各地で実施したらどうか。 初級から上級までの段階を設け、レベルを段階的にしたらどうか。</p>
<p>営業を基本とする現行制度は現状でも良いと思うが、すそ野を広げる意味で、例えば小・中学校教諭、幼児教育、保育者が取得可能な資格制度も必要かと思えます。 その背景には、今日の幼児から小・中学生の野外における無知・無関心があります。 当然、家庭教育における保護者の意識の問題もありますが、幼児教育から学校教育への連携も含めて、新たなアウトドア教育(今日的には「食育」が先行しているが・・・)が、位置付けられる時代に来ていると考えます。</p>
<p>観光のひとつのアクティビティとして、途絶えてはいけないと思う。 資格を持っていても、何も変わらない。 プロでも死んでいる。その場所を熟知していなければいけない。 自治体や観光協会に言っても何も変わらない。 理解してもらえない。地元の古い人間が頭がかたく、この人たちがネックになっている。</p>
<p>トレイルライディングガイドの資格を取得しましたが、現在は更新しておりません。 優先順位の高い専門分野の資格(乗馬指導員)があれば、特に必要性がないため、費用と時間をかける必要性が薄いと思っています。 当施設は町営の乗馬施設で営利を目的とした施設ではないため、安全優先で運営しています。</p>
<p><b>地域へのガイド派遣事業の実施</b> 前団体は、漠然とやられていたように感じていましたが、現業務センターに移行されてからは、ガイド目線で物事を進めて行ってくれていると思います。 受験者(アウトドア資格)が増加しているのも、そのように進めていっているからではないでしょうか。 そのように、ガイド目線で進めてくれる業務センターにガイド事業者が協力しているか？ 実際には、何も協力はできず、やっていただいているばかりだと思えます。 前団体は受託で道庁より支援を受けていたため、いろいろな事業等を行うことができ、また、有資格者、一般からも会員制度として会費を納入していました。 現業務センターには会費の納入もないことから、会員制にしてアウトドア業者がバックアップすることが望ましいことと思えます。 その他にも各事業所が協力して、業務センターに協力すれば道庁との架け橋になって、各事業所をフォローしてくれると思うので、道庁と事業者の間に入って、一番大変な業務センターを官、民で大事にしていかなければ、まず、業界の発展はないと思えます。 現業務センターは「認定」でアウトドアの業務全般を入っているため、道庁としても更にバックアップしていただき、この資格制度を発展させていただき、各事業所もそれに応え、北海道のアウトドア業界を発展させていければ良いと思います。 色々な事業者、ガイド、新規取得者の声を聞くと、事務局対応で色々アドバイスをもらっている、相談にのってもらっている等聞く機会が多いです。ゆえに信頼あつての物だと思えます。 また、資格取得の推進のみならず、どうやったらお客様が増えるか等、地域のプロモーションも多々やっていただいているおかげで、冬のお客様も年々増加傾向にあります。 また雇用の問題についても今後、相談させていただこうかと考えています。 このようにお願いするだけでなく、何か協力できることはしなければならぬので、先に書いたように、会費の納入等も検討いただけたらと思います。 以上長文になりましたが、道庁、業務センター、アウトドア事業所、ガイドがあつての物だと思えますので、道庁、業務センターの連携、道庁から業務センターへの支援等含め、検討いただけたらと思います。 全てとはいいませんが、大半のガイド、ガイド事業者は、支持・信頼しています。 今後ともよろしく願います。</p>
<p>当観光協会は今回の調査対象外なのかとの思いの中で回答させて頂きました。 現況、小規模ではありますが、方向的には拡大したい。 特に、小中学生を対象とした教育型体験観光の場を今後も提供していきたい。 アウトドア業界の連携、お客様に他のガイド会社の情報を伝え、マンネリ化を防ぐ。 それぞれのアクティビティを一括して検索できれば便利だと思う。 団体のメンバーは高齢の方が多いため、資格を取り易いように説明会など地方にも来ていただけるといいと思う。 自然ガイド(試験員の方)の研修を根拠でお願いします。</p>
<p>このアンケートは非常に答えにくかったです。以降、メール等でいただけると助かります。 ガイド資格保有者のステータス向上のための様々な取組が必要だと思います。</p>

回答詳細

資格は全てのフィールドに当てはまるものではないのであまり意味がないと思う。  
いずれは業界であっても発展させるためには、そこで勤める人々の暮らしを豊かにすれば、自然と発展します。  
自分のフィールドを天候に左右されながらも、より安全により良いフィールドに手入れをしたり。  
そのような活動は、自然を保全することにつながります。

その部分を上手に補うシステムがあればおもしろいかもかもしれません。

資格制度をもう少し簡素化できないか。

制度を強化するなら無資格者の業界に何らかの制限を加える等必要では。

アウトドア資格の試験回数が少ない。

年間複数受験できる回数にしてほしい。

当方はメインがラフティングだが、ニセコ地域で実技試験の開催をしてほしい。

試験、テキスト料金などでお金がかかり過ぎ、若い人が資格を取るために負担するのが厳しい。

資格を持っていてもプラスになるなど知名度がない(SAJ1級や指導員などと比べて)。

アウトドア資格制度は素晴らしいものだと思いますが、例年私の業務との時期的な事情で、資格が取得できずにいます。

4月～5月あるいは11月くらいにも資格試験が受けられれば良いのになと思います。

国の助成等があればゴルフ場内の遊歩など可能になります。

当社は現定義にはない「キャンプ」の資格制度があれば検討したい。

ガイド資格がなくても事業所が行える。

有料事業者を取得することにより、事業展開が制限されることになる場合もある。

上記のようなことをクリアしない限り、資格制度及び業界そのものの発展は難しいと思う。